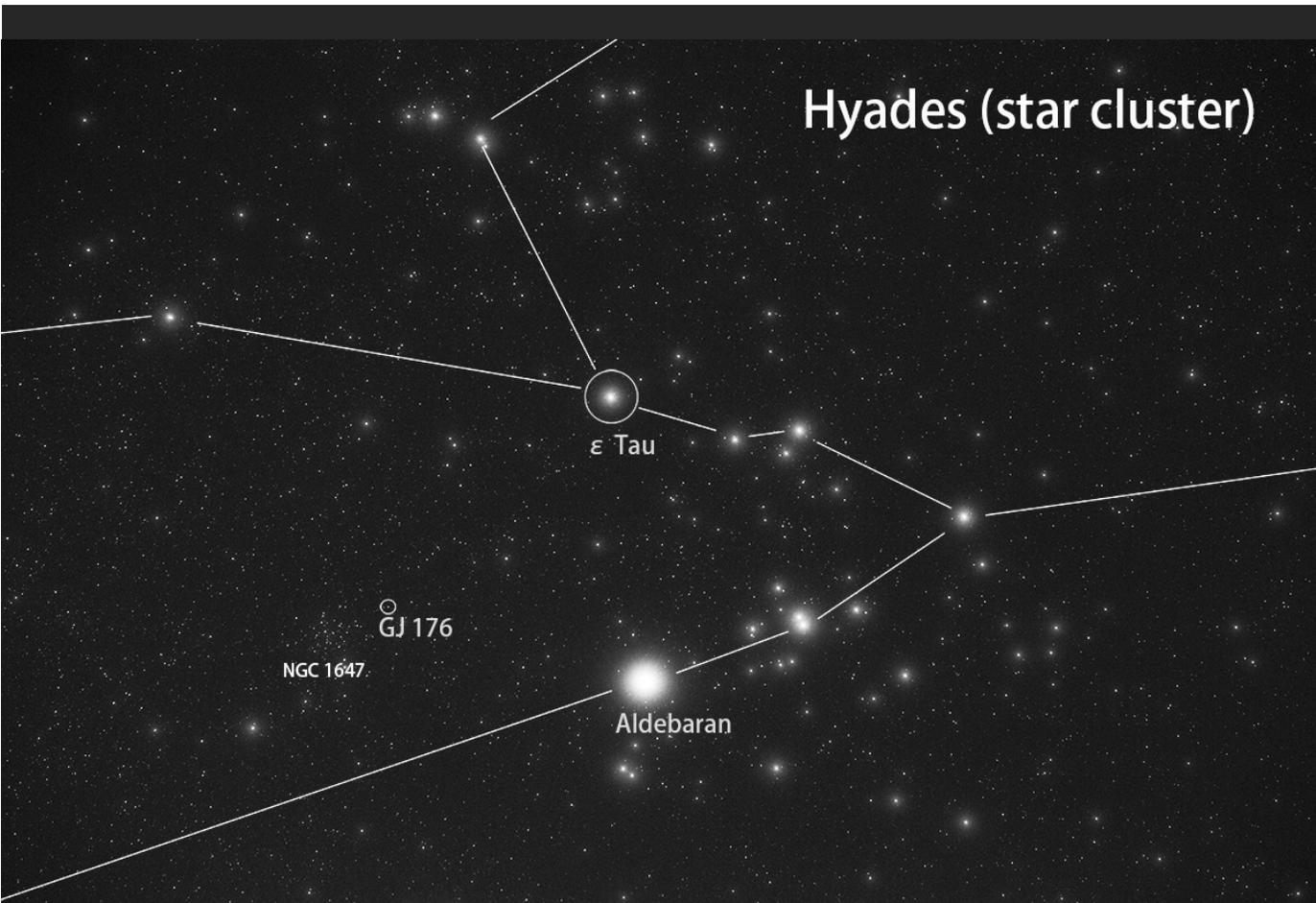


天文教育

2014

11

Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy



〈特別記事〉 新会長からのメッセージ

〈特集〉 太陽系外惑星系に名前をつけよう

〈投稿〉 銀河系中心附近の質量

〈報告〉 第4回高校生天文

活動発表会／ライトダウンイベント in 東広島 2014

天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。

1. **原著論文**：天文学教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクトには英文も付けてください。
2. **解説記事**：天文学や天文学教育・普及に関する解説・紹介記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告、また天文学教育・普及に関する授業の実践例など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文学教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください（写真のみでも構いません）。
7. **情報コーナー（各種会合・イベントの告知など）**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日（奇数月下旬）にご留意ください。

・**締め切り**は1は原則として奇数月末日、2~7は偶数月15日。投稿先は post@tenkyo.net です。

・**広告掲載**を希望される方は事務局 (jimu@tenkyo.net) までお申込みください。掲載料はB5判1ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000です。

※本誌に掲載された記事は、当会 Web サイト (<http://tenkyo.net/>) にて PDF ファイルの形で公開を予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡をお願いいたします。

なお、2014年9月号から、当会会員に対しては会誌発行後に速やかに、パスワード制限※をかけた形で閲覧できるようにし、発行から1年経過後にパスワード制限を解除して、広く一般に公開する予定です。

※今号「事務局からのお知らせ」の末尾（55頁）をご参照ください。

【編集委員会からのお願い】

『天文学教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートがホームページ (<http://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします（執筆上の留意点なども記しています）。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

ε Tau（おうし座イプシロン） 肉眼で見える「系外惑星を持つ恒星」 I

日時：2014年10月18日22時57分
カメラ・レンズ：Canon EOS5DMkIII, Carl Zeiss
Apo-Sonnar T* 135mm f/2

おうし座のV字の形を作るヒアデス星団は、私たちから最も近い散開星団である。この星団までの距離は約150光年である。その距離は、三角視差、運動星団視差法、及び、分光視差法の3つの方法で独立に決められており、宇宙距離「はしご」の第1段として非常に重要な天体である。約400個の星からなるヒアデス星団は、その年齢や化学組成などがほぼ同じであるため、星の進化の研究

にも重要である。そうして、系外惑星系のパラエティーを作る原因を探る、非常に良いターゲットともいえる。佐藤文衛氏らのグループは、岡山天体物理観測所188cm望遠鏡と高分散分光器HIDESを用いた視線速度法で、この星団内の系外惑星探査を行い、2007年、明るさ3.5等の赤色巨星ε Tauの周りに、質量が木星の7.7倍で、1.9天文単位の距離を約600日かけて公転する惑星を発見した。これは、散開星団で発見された初めての惑星である。

いま、IAUによる系外惑星命名キャンペーンが始まっている。皆さんも、初冬の星空を眺めて、系外惑星の名前を考えてみませんか。

撮影と文：大西浩次